

コラム 国際収支統計の見直し

第5章「国際収支のしくみ」に関して、財務省・日本銀行は2014年1月から大幅に見直した統計を発表している。多岐にわたる見直しのなかで、大枠に関するものに絞ると以下の2点である。

第1は名称変更と項目の組み替えである。経常収支のなかで、所得収支を第一次所得収支に、経常移転収支を第二次所得収支に変更した。また、資本収支のなかでは、その他資本収支を資本移転等収支に変更した。さらに、投資収支と外貨準備増減を統合して金融収支とした（表1）。

表1 国際収支表の組み替えと名称変更

見直し前	見直し後
経常収支	経常収支
貿易・サービス収支	貿易・サービス収支
貿易収支	貿易収支
サービス収支	サービス収支
所得収支	第一次所得収支
経常移転収支	第二次所得収支
資本収支	資本移転等収支
投資収支	金融収支
直接投資	直接投資
証券投資	証券投資
金融派生商品	金融派生商品
その他収支	その他収支
その他資本収支	外貨準備
外貨準備増減	

第2は符号表示の変更である。金融収支について、資金の流入（対外資産の減少・対外負債の増加）をプラス（+）で表示していたものをマイナス（-）に、資金の流出（対外資産の増加、対外負債の減少）をマイナス（-）で表示していたものをプラス（+）に変更した。これは資産・負債の増減の側面や他の経済統計との整合性を重視したことによる。

その結果、これまででは、

$$\text{経常収支} + \text{資本収支} + \text{外貨準備増減} + \text{誤差脱漏} = 0$$

であったものが、

$$\text{経常収支} + \text{資本移転等収支} - \text{金融収支} + \text{誤差脱漏} = 0$$

となる。

見直し後の統計に基づいて2013～17年の国際収支の推移をみると、2011年

までの円高が是正されたことや世界経済の拡大を反映した輸出拡大と、エネルギー価格が2014年までの高水準から下落したことで輸入金額が抑えられたことから、貿易収支は2016年に赤字から黒字に転じた。来日外国人観光客の増加を主因に旅行収支が2015年に赤字から黒字に転じ、その後も黒字額の拡大を続けていることから、サービス収支の赤字は縮小傾向にある。第一次所得収支は、日本が世界一の対外純債権国であることから、GDP比3.5～4.0%程度の高水準の黒字を続けている。

これらを反映して、経常収支黒字の対GDP比は2012～14年に1%前後まで落ち込んだが、その後再び拡大して2017年は4.0%を記録した（表2）。

表2 日本の国際収支

(単位:億円)

(暦年)	2013	2014	2015	2016	2017
経常収支	44,566	39,215	165,194	210,615	219,514
(対GDP比)	0.9	0.8	3.1	3.9	4.0
貿易・サービス収支	-122,521	-134,988	-28,169	43,888	42,297
貿易収支	-87,734	-104,653	-8,862	55,176	49,554
サービス収支	-34,786	-30,335	-19,307	-11,288	-7,257
第一次所得収支	176,978	194,148	213,032	188,183	198,374
第二次所得収支	-9,892	-19,945	-19,669	-21,456	-21,157
資本移転等収支	-7,436	-2,089	-2,714	-7,433	-2,872
金融収支	-4,087	62,782	218,764	282,764	176,642
直接投資	142,459	125,877	161,319	145,293	168,271
証券投資	-265,652	-48,330	160,294	296,496	-59,680
金融派生商品	55,516	37,644	21,439	-16,582	34,561
その他収支	25,085	-61,306	-130,539	-136,662	6,972
外貨準備	38,504	8,898	6,251	-5,780	26,518
誤差・脱漏	-41,217	25,656	56,283	79,583	-40,000

(注)金融収支の(－)は資本の流入(資産の減少、負債の増加)を示す。

(出所)財務省「国際収支状況」

【2019年1月 西村陽造】